

# 新建 おおさか

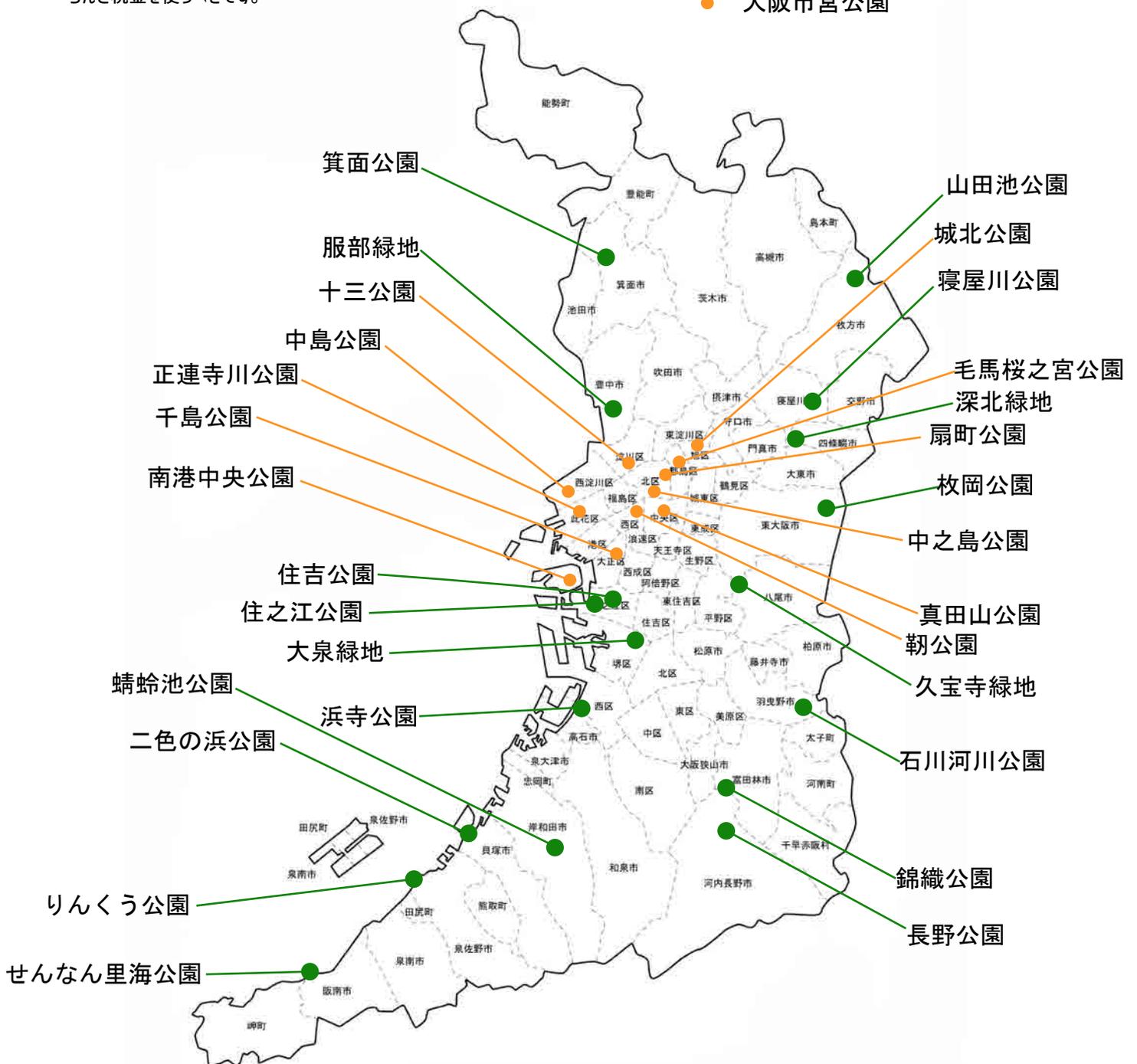
- 大阪にカジノIRが建設されることに明確に反対な理由
- 第32回研究集会報告集（CD）ができました
- 世相を斬ります いろは川柳
- 新建賞受賞 大槻博司さん

これらのおなじみの公園は Park-PFI で民間の施設が建てられたり、イベントが行われたりすることで、維持費を捻出しようとしています。公園は大切な公共空間です。

都市公園法第一条（目的）には

「この法律は、都市公園の設置及び管理に関する基準等を定めて、都市公園の健全な発達を図り、もって公共の福祉の増進に資することを目的とする。」と書かれています。市民がお金を使わないと公共の福祉を受け取れないというのは間違いです。公園の維持にはきちんと税金を使うべきです。

- 大阪府営公園
- 大阪市営公園



# 大阪にカジノ IR が建設されることに明確に反対な理由

新建大阪支部 山口達也

2025 大阪万博や統合型リゾート (IR) と呼ばれる大阪夢洲へのカジノ誘致について、当初、建築関係者からは「それで少しでも景気がよくなったらええんちゃうの」「万博やカジノが来たら 1970 年の大阪万博みたいに景気がよくなるかも」という声もちらほらありました。

しかししかし。実際計画が進んでいくとかなりずさんな内容であることがわかってきました。ここではそれを共有するとともに、新建大阪支部としても反対決議を提案する次第です。

## ■1970 大阪万博と 2025 大阪万博との違い

高度成長期真っ只中であつた 1970 年の大阪万博と今度の万博とは、そもそも国力も勢いも時代背景も全く異なります。私は当時小学 2 年生でしたが、梅田から電車で万博駅まで行った記憶があります。そうなんです。御堂筋線は当時終点が万博駅だったので。そのころ、まだ中国自動車道は建設予定地であつたため、そのルートを使って、御堂筋線は直接万博駅につながっていたんです。また万博後は、千里中央駅から千里ニュータウンにつながっていったわけです。

その夢よもう一度、ということで 2025 大阪万博は 6 つの候補地があつたのですが、松井知事がそのうちのひとつ、夢洲にターゲットを絞ったわけです。ところが夢洲はゴミの島ですし、南港でさえ遠いと思う大阪人がその先に、千里ニュータウンが作れるはずもなく、半年だけの万博で、地下鉄も延伸したあとに行える大阪の新しい名所ということで、統合型リゾート IR カジノという選択肢が出てきました。当時はマリーナベイサンズが隆盛を誇っていたこともあり、カジノでまちづくりもありなんではないか、という空気感がありました。

ですが、千里ニュータウンと IR カジノ。しかもゴミの島。そもそもこの建付けが根本的に致命的な発想だと言わざるをえないスタートだったわけです。

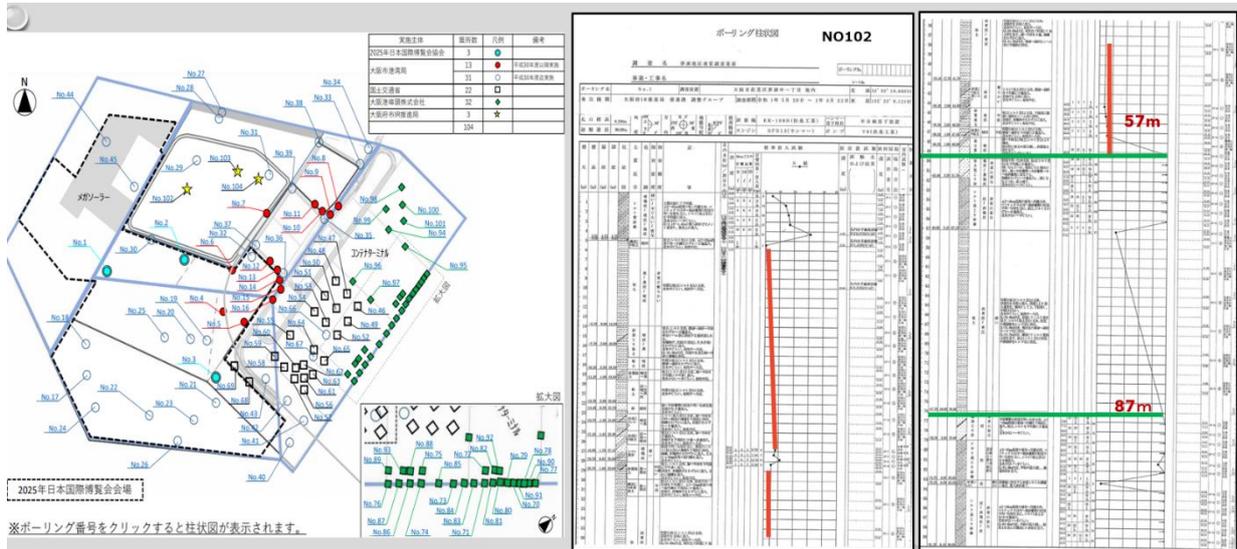
そしてそこにコロナ禍という追い打ちがかかり、大阪でのインバウンド事業を含めた戦略は大幅な見直しを掛けなければならなくなりました。その時点でこの致命的な発想を捨てられればよかったのですが、更に泥沼化していく過程へ進んでいきます。

## ■1：そもそも商業地ではない夢洲

N 値が 3～5 という超絶な軟弱地盤である夢洲は、1400 万立米の産業廃棄物が眠っています。支持層は 87m とも言われ、そもそも建物を建設する土地として不適切です。千歩譲って、半年間の 2025 大阪万博はなんとかやれたとしても、その後 35+30=65 年の契約となる IR カジノは恒久的な建築物であり、この土地に建てるべきではありません。その事実を全て知った上で、大阪市都市計画局は商業地域に用途転用を認めます。当然、建築用地としては問題があり、その点を名乗りを上げた MGM オリックスグループに突かれた挙げ句、大阪市はあっさり公費で地盤整備及び沈下対策を行うことを基本協定の中に盛り込みました。この事自体が既に大阪市民にとっては背任行為です。

## ■2：候補は 1 業者、MGM オリックスグループのみ

前述しましたが、数社のコンペになるはずがコロナ禍やデジタルカジノにより、撤退。MGM オリックスグループ 1 社のみとの契約となることになりました。本来地下鉄延伸の建設費用もカジノ事業者が一部負担することになっていたのでありますが、地下鉄どころか地盤改良や沈下対策費用まで大阪市が肩代わりすることになってしまいました。そこまでしてカジノを呼ぶ必要があるのかどうか。しかも契約は大阪府からは解除できず、カジノ業者は一方向的に止めることができるという不平等条件の契約となっています。



夢洲 NO102 地点のボーリングデータ。57m まで N 値 3-5 が続く。一旦支持層になりそうになるが再び 87m までは予断を許さない状態

### ■ 3 : そもそもカジノが成長戦略なのか : しょぼい MICE 機能

大阪の成長戦略としての観光事業の柱として位置づけられていた大阪 IR でしたが、IR の主要な機能であるはずの MICE=国際見本市や会議等の機能はもともと予定されていた 10 万平米から 2 万平米でスタートすることになりました。現在のインテックス大阪が 7 万平米弱ですから、その 3 分の 1 以下。これが世界標準のレベルなのでしょうか。そしてカジノは其中で経済を回し、収益は海外に流れるため、結局のところ、本来地域で使われるはずだったお金がカジノに吸い取られていくだけのしくみなのです。つまりカジノビジネスが成功したら地域は衰退し、カジノビジネスが失敗したら撤退された上に廃墟と借金が残るだけなのです。

### ■ 4 : 決定プロセスの問題

このような様々な問題があるこのカジノ誘致計画について、大阪府/大阪市の公聴会と説明会が 2021 年コロナ禍の年末年始に行われました。しかし紙ベースでの広報はなく、インターネットのページで公募したのみです。その公聴会では 90%以上が反対の意見陳述でしたが、全て無視の状態で、議会に掛けられ、3 月 24 日大阪府議会、29 日に大阪市議会の議決を経て、正式決定しました。府民市民の意見と議会議決内容がこれほど乖離しかつ説明責任も果たされていない状態での決定プロセスには大きな問題があります。

### ■ 5 : 民主主義の仕組みとしての直接請求権の行使を！

日本の地方行政は二元代表制をとっていますが、選挙で選んだ首長、議会とも選挙民の要望を実現せずに暴走した場合、民主主義の仕組みとして、地上自治法 74 条に直接請求権が認められています。これは選挙民の 50 分の 1 以上の署名を集めると、府議会は議会を招集してその要望について検討し議決しなければならないというもので、横浜市では実際に署名を集め、最終的に現職市長を交代させる運動にまで広がりました。

全く無謀でお花畑のような計画となった夢洲 IR カジノ計画について、新建築家技術者集団大阪支部としても立ち上がり、大きな市民運動の一角を担うことが重要です。

詳しくは、<https://vosaka.net> カジノの是非は府民が決める住民投票をもとめる会のホームページをご覧ください、署名にご協力いただきたいです。

## 第32回研究集会報告集（CD）ができました

2020年11月から2021年7月まで、11分科会が延べ50回開催され、114本の報告と延べ1,084名が参加したオンライン研究集会の各報告（以下もくじ）を収録したCDができました。

報告集の購入申込み、代金お支払い方法などは下記のURLにアクセスしてください。

片方先生の新建設立50周年記念講演会YouTubeの下に申込ボタンがあります。

<https://shinken-osaka.com/33-2021/>

オープニングセレモニー「新建50周年における研究集会の意義」	山本厚生（神奈川）
<b>第1分科会 防災と復興</b>	
1-00 第1分科会「防災と復興」まとめ集	山下千佳（東京）
1-01 第1分科会「防災と復興」全体概要	山下千佳（東京）
1-02 災害と全国の運動ー建築技術者の役割	千代崎一夫（東京）
1-03 福知山市造成水害訴訟「現地調査と住民の声」事業問題	久守一敏（京都）
1-04 災害と社会変容	富樫 豊（富山）
1-05 女川原発再稼働から浮かび上がった問題	中嶋 廉
1-06 福島第一原発災害の現状と課題	鈴木 浩（東京）
1-08 災害に向き合い、被災者を支援し、災害に備える	室崎益輝
1-09 東日本大震災・巨大津波からの復旧・復興について	木村 明
1-10 大震災から10年・石巻エリアを中心に見た復興と再建	佐々木文彦（宮城）
1-11 熊本県宇城市小川町 伝統的な町並みの復興まちづくり	磯田節子（福岡）
1-12 2020年熊本7月豪雨による登録有形文化財の復旧支援	磯田節子（福岡）
1-13 阪神・淡路大震災26年 創造的復興がもたらしたもの	塩崎賢明（兵庫）
資料-1-01 災害と全国の運動	千代崎一夫（東京）
資料-1-06 福島の現状と課題	鈴木 浩（東京）
資料-1-09 東日本大震災・巨大津波からの復旧・復興について	木村 明
資料-1-10 大震災から10年・石巻エリアを中心に見た復興と再建	佐々木文彦（宮城）
<b>第2分科会 生活と福祉</b>	
2-01 住宅改修を継続する	加瀬澤文芳（千葉）
2-02 ■Wellの会	大坪克也・楠田るみ子（福岡）
2-03 ■さざなみ作業所	大坪克也・楠田るみ子（福岡）
2-04 ■しんどう小児科	大坪克也・楠田るみ子（福岡）
2-05 ■はたけのいえ	月成かや（福岡）
2-06 ■風ひかり作業所	月成かや（福岡）
2-07 ■宝箱そらまめ	月成かや（福岡）
2-08 共生型小規模福祉施設「ふれあいの家」	柏木 茂（北海道）
2-09 多世代の居場所づくり	牛山美緒（東京）
<b>第3分科会 住まいづくり</b>	
3-01 専門家として提案できる普遍的な住まいづくりの方法はあるか	
3-02 築40年の木造住宅「住み続けるための改修工事」	清原正人（京都）
3-03 住まいづくりで追及する住民主体の方法と課題	山本厚生（神奈川）
3-04 大原家四代の物語（ご縁をつむぐ）	矢野安希子（福岡）
3-05 絵本「健康と幸せの方程式」	丸谷博男（東京）
3-06 実例を通して住まいを考える	甫立浩一（愛知）
<b>第4分科会 集まって住む</b>	
4-00 第4分科会のまとめ	久永雅敏（京都）
4-01 コーポラティブ方式による住まいづくりの可能性	関 真弓（東京）
4-02 多様な集まって住む形と、地域の関係性づくり	野田明宏（東京）
4-03 地域で暮らす「こたらいふ東寺」と「居場所よっとーくりやす」	川本真澄（京都）
<b>第5分科会 地域での生産・施工</b>	
5-01 第5分科会案内チラシ1213 岐阜	
5-02 住まい手から見たものづくりとまちづくり	山口達也（大阪）
5-03 第5分科会案内チラシ 0410 奈良	
5-04 将来に希望の持てるリアルな仕事と経営の話	甫立浩一（愛知）
<b>第6分科会 まちづくり</b>	
6-00 第6分科会の主旨	
6-01 風土・街・意識、暮らしの延長として街づくり	富樫 豊（愛知）
6-02 地方中心市街地における、まちづくりと持続化	野田明宏（東京）
6-03 多様な人が活躍する町育てーパブリックでまちを面白くする 名古屋錦二丁目地区の取り組みより	名畑 恵（愛知）
6-04 地縁組織の可能性ー町内会はコミュニティの基盤になれるかー	川田綾子（東京）
6-05 旧態依然とした駅前再開発計画は変えられないのかー牧方市駅前再々開発の場合	大槻博司（大阪）
6-06 京の三条まちづくり協議会の挑戦	宮本和則（京都）
6-07 建築基準法を技術的制御手段とした狭隘道路の改善	増淵昌利
資料6-05 旧態依然とした駅前再開発計画は変えられないのか	大槻博司（大阪）

<b>第7分科会 リフォーム・リノベーション</b>	
7-00 第7分科会のまとめ	加瀬澤文芳（千葉）
7-01 集合技術によるリノベーション	岸田一輝（千葉）
7-02 つかいながら治しながら青い空保育園の改修事例	山田雄斗（京都）
7-03 古民家の継続的改修と若い世代の暮らし	加瀬澤文芳（千葉）
7-04 空き庭リノベーション事例	佐倉弘祐
<b>第8分科会 マンション</b>	
8-00 第8分科会・概要 報告者一覧	
8-01 被災マンションAの軌跡と専門家のサポート	藤野雅子（福岡）
8-02 マンションの防災	千代崎一夫（東京）
8-03 どんなマンションでもサポート	千代崎一夫（東京）
8-04 446戸の団地の「百年住宅宣言」物語	山下千佳（東京）
8-05 18戸 20戸 自主管理マンションのサポート	山下千佳（東京）
8-06 「外断熱マンションは永年住宅への道」	大橋周二（北海道）
8-07 日本の住宅政策とマンション改正法	野口哲夫（東京）
8-08 高経年マンションの持続可能なマンションづくりの取組み	大槻博司（大阪）
8-09 コト・ハイツツ見稲荷 住民アンケートとコミュニティづくり	久守一敏（京都）
8-10 住民の手によるマンション建て替え	杉山 昇（東京）
資料8-07 日本の住宅政策とマンション改正法	野口哲夫（東京）
資料8-08 高経年マンションの持続可能なマンションづくりの取組み	大槻博司（大阪）
資料8-11 長寿命化マンションを目指し、躯体の予防保全	片井克美（福岡）
<b>第9分科会 住宅団地の再編</b>	
9-00 分科会の趣旨と開催経過、今後に向けて	澤田大樹（東京）
9-01 夕張における住宅縮小再編は	馬場麻衣（北海道）
9-02 “状況に応じた昇降設備や住宅設備の選択・開発” ～COVID-19との共存時代の住宅設備のあり方を考える	小畑晴治
9-03 住民による街づくり協定の策定	浅井義泰（読者）
9-04 都営桐ヶ丘団地75年の歴史とこれからの課題	石原重治（東京）
9-05 住宅団地と外国人居住—愛知県知立団地を例として	岡本祥浩（愛知）
9-06 多摩ニュータウンの現在地	戸辺文博
9-07 公共住宅におけるストック改善の動向	鎌田一夫（千葉）
9-07 「建替から再生に転じたURの課題」—UR団地の再編・再生の経緯、実態、改革—	坂庭国晴（東京）
9-09 URによる団地再生実験「東綾瀬団地」 反対運動から建替え、ルネッサンスⅡ・いろどりの杜へ	江国智洋（東京）
9-10 住宅地における地区計画制定の動向とその意味 地区計画が果たす役割（一団地の住宅施設や建築協定に代わるルールとして	中川智之
<b>第10分科会 伝統構法・民家再生・歴史的環境</b>	
10-00 第10分科会まとめ	
10-01 伝統的構法建物の構造設計の特徴	川崎 薫（福岡）
10-02 先人に学び今に生きる技術と知恵	安藤政英（長野）
10-03 奈良町の長屋再生と活用	渡邊有佳子（奈良）
<b>第11分科会 環境とデザイン</b>	
11-01 外断熱工法の改修手法について	大橋周二（北海道）
11-02 市民が行う自然エネルギーの地産地消	由田昭治（福井）
11-03 省エネ基準「外皮」を越えて沖縄からの提案	清水 肇（京都）
11-04 原発の環境問題と廃炉時代の地域デザイン	乾 康代（茨木）
11-05 造園から見る環境	大原紀子（大阪）
11-06 環境とコミュニティ・秦野の実践	山本厚生（神奈川）
11-07 質素に暮らす北海道の住宅	白田智樹（北海道）
11-08 茨城県営〈六番池団地〉誕生の経緯と展開	藤本昌也（東京）
11-09 「奈良をつなぐ家づくりの会」地域型住宅グリーン化事業	伏見康司（奈良）
11-10 SDGsと木の空間づくり	福田啓次（愛知）
11-11 気候変動問題と住まいづくり	高本直司（東京）
11-12 居心地の良い温熱環境を作るための設計の工夫	岩城由里子（奈良）
11-13 日本の民家の現代版「soradomaの家」	丸谷博男（東京）
11-14 中村好文設計のエコハウスに住む	川合英二郎（愛知）
11-15 「地球環境と建築技術者」—自然と正面から向き合ってみませんか ～環境異変を回避するために～	金田正夫（東京）

※11-15は未掲載です

まとめの会 私の仕事の「かたち」今とこれから

藤本昌也・高本直司・木村よしひろ・佐藤未来・岸田一輝・馬場麻衣・野田明宏・岡田昭人

収録したCD



お申込みはこちらまで



む 無理通す 無理やり通せば 道理なし

う ウィグルの 迫害禁止や 習 “禁兵”

る 今は昔 五輪に夢中 五里霧中

の ノーサイド 徴用工も 慰安婦も

お 温暖化 モデルでノーベル ノーカーボン

く ロも触れず アベノマスクは お別れネ

や 止められぬ 濡れ手に粟や バツハツハ (再笑)

ま 幻や トリクルダウン 露と消え

け 現金で 一億五千 どこ消えた

ふ 福島を 汚染で泣かすな 馬子痩せ

こ GOTOの トラベル再開 トラブルに

え ええかげん 自宅療養 放ったらかし

て 敵基地を 先制攻撃 イケンやろ



あ I.O.C ああ美味しいな バツハツハ (笑)

さ 桜見は サクラばかりで “桜も怒り♪”

き 岸だ乗れ 漕ぎ出アソウか アベつくで

ゆ 行き詰まる 成長神話 脱成長

め 目に余る 怒り心頭 ああしんど

み 民営化 規制緩和で “せく” になった?

し シカと見た? 馬ではないのか 馬鹿を見た

ゑ 炎上し エンジョイしすぎ 炎上し

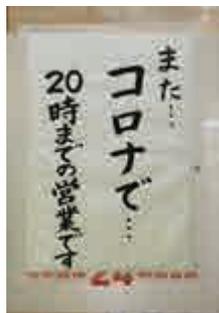
ひ 人新世 人新生で 世直しや

も 森友で 安倍は安泰 “あべこべや”

せ 殺生や 時短に酒なし 客来るか (諦)

す 捨て駒か 非正規解雇 企業肥え

ん んんちゃと あきれたホヨヨ アラレちゃんII



# 川

# 柳

新建大阪支部

中西 晃

い いりまへん 地震・カミナリ・カジノNO

ろ ロケットも 信頼失墜 “北挑戦”



は 覇権主義 一带一路 一体なるの？

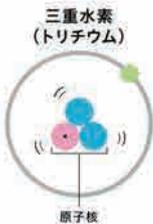
に 二階から 目薬効かない？ 二回どう

ほ 香港に 一国二制度 今一度

へ 屁理屈で プーチン侵略 もうロシア



と トリチウム 何度濾しても “取り値有ム？”



ち 珍答弁 分科会では “尾身”とおし

り リスクなど 無いと言ったら リスクゼロ

ぬ ぬか喜び “禍中さ河井や 別れのつらさ”



る ルンルンや “佐川した”のに 雲隠れ

を オセロなら 白黒つくの に 赤木メモ

わ 私の“計” 連れて行ってよ ニューヨーク (祝)

か 夏季来れば カネが鳴く成り バツハツハ (笑)

よ 予算超え 誰が尻拭く オリ2兆

た タックスも ヘブンで天国 税逃れ

れ 連戦も 無言客1/2 “廃”ジウム

そ その通り いつか来た道 逆戻り

つ ツルと見せ 招き入れたら サギだった

ね 寝てばかり 議会審議は 子守歌

な 流れ着く 止まぬ軽石 軽くなし

ら 羅針盤 無い政府うちらシランバイ”



# 新建賞大賞を受賞されました！

昨年11月21日、第33回全国大会において新建賞が発表され、大阪支部の大槻博司さんが見事に大賞を受賞されました。詳しい内容は『建築とまちづくり』2月号と第32回研究集会報告集に掲載されています。

受賞された「高経年マンションの持続可能なマンションづくりの取組み」は大槻氏が長年取り組まれてきたマンション大規模改修の設計業務の中で、単に不具合を修繕するという概念から、建築資産として蘇らせ住み手の居住環境を向上させるという、高みを目指した活動を記されたものです。

マンションのコミュニティ形成を促し、健全な管理組合運営をすることが、空き家が少なく安心安全で魅力的な持続可能なマンションづくりへと導けるのだということを感じさせてくれます。

住宅も学校も事務所ビルもマンションも、どんな建築でも建築家は大切に使い継がれていくための努力をしていくべきであり、単純に耐用年数が建物の寿命だと考えを持つべきではないと改めて感じました。

仕事というのは、その時その時単発で行われるものが多いですが、建築家や技術者に新建の理念があると、どの場面でも住まい手・使い手の立場にたった仕事になっていく、それが積み重なったときに、使い継いでいきたいと思ってもらえるような、分厚い“建築とまち”になると、痛感しました。(大原紀子)



表彰状と盾